

Title	星
Author(s)	岡田, 春潮
Citation	天界 = The heavens (1928), 8(88): 316-317
Issue Date	1928-06-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/161314
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

觀測結果を比較してみたくてたまらなくなりました。幸にも當時發行されてゐた雜誌——この言葉は勿論適當でないかもしれませんが——Monatliche Korrespondenz (Zach さいふ人が發行してゐました) 及び天文年報に氏が慾求してきた觀測結果が出してありました。そこで氏は Bohnenberger の本にしたがつて、これらの觀測のおこなはれた地點を氏が觀測した地點——Bremen——との間の時刻の相違をこの兩觀測の結果をしらべて計算して決めなければなりません。その結果たつた一二秒あやしいさいふ程度にまで精密に決定されました。これが氏の實地天文學上に於いての最初の成功でありました。このさきの氏のよろこびは非常なものでありました。氏はこのさきのよろこびについて自ら次の様に書いてゐます。即ち“この成功が私にもたらしたところのよろこびを理解しようとする人は青年の熱情をもたなければなりません云々。” (つゞく)

星

大 阪 岡 田 春 潮

ものみな眠る眞夜なか ただ獨り窓を開いて
大空に耀やく星くすの 沈黙の歌を聞く

深く澄める闇黒の空に きらめく千萬の星！
過ぎ行く時の流れに 音も無く流れ行くか

^{つち}地の上の總ての人は眠つて 私ひそり目覺めてゐる——
神祕なる星の歌を 私ひそりが聞いている！

私の心は故もなく 涯しなき大空に飛んで行く
未だ見ぬ宇宙の涯から 星は私を導いてくれる

すべてのものの眠つてゐる地上に 私はひそりの知己をも求めない
空の彼方の星くすよ 私は御前だけで満足だ！

ここに私の存在がある そして私は祝福されてある——

叡山上のミラム教授夫妻



去る 1927 年十二月 31 日、米國の天文學者ミラム教授夫妻を迎へて比叡山に案内したときの寫眞。向つて左よりミラム教授、ミラム夫人、新城教授。撮影者は山本。（「天界」第 83 號第 83 頁參照）場所はケーブルカー停車場の南側、目の前には御正月の準備で、しめ飾りがある。ミラム氏が右手に持つてゐるのは新城教授から贈られた論文集。